

NO, 13

仙台湾岸運河群の
歴史と記憶を伝える協議会

「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」（設立まで）

「今後の活動と組織のあり方」の検討結果

- ▶これまでの蒲生舟溜り・御蔵跡の保存と活用の活動成果や学ぶ会（講演等）参加者アンケート等の意見を踏まえて、参画の各団体代表者で検討を行った。
- ▶結果、下記の対象範囲及び活動の方向とした協議会を設立することとなった。

対象範囲

- ◎新堀を含めた貞山運河（堀）の保存と活用の中で、蒲生の舟溜り・御蔵跡を考えて行くことが望ましい
 - ☞名取川から七北田川までの仙台市東部沿岸地域の方々にも参画を呼びかけて行く
- ◎また、仙台湾岸の運河群として、阿武隈川から北上川までを対象として、広く参画を呼びかけて行く
- ◎併せて、関連する寒風沢湊と野蒜築港も含める。

今後の活動の方向

これまでの行政と対峙するのではなく、
行政と協働して仙台湾岸の運河群の正しい歴史を学び、
広く市民に伝え、守り・次世代に継承して行く

→「**仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会**」設立

「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」の概要 （略称：「仙台湾運河群歴史協議会」）

「仙台湾岸運河群」とは（規約 第3及び4条）

- 江戸時代に開削された「木曳堀」及び「御舟入堀」、明治時代開削の「新堀」（3堀は貞山堀又は貞山運河とも）
- 明治時代の野蒜築港に関連して開削された「北上運河」、「東名運河」
- 併せて、野蒜築港、幕府の御城米や藩の御穀米などの湊であった寒風沢も対象

※仙台湾運河群とは、本協議会が便宜上付けた名称

協議会の目的（規約 第2条）

- ①仙台湾岸運河群の歴史とその地域の記憶を学び、これを広く市民に伝える
- ②仙台湾岸地域の豊かな自然・歴史・文化・風土などの地域資源を掘り起こし、これを守り・育て、地域資源の持続可能な活用を図りながら次世代への継承
- ③これらの資源を結ぶことにより交流と連携を促進し、心豊かで誇りある仙台湾岸地域を旨とした地域づくりに貢献

協議会の事業（規約 第4条）

- (1) 運河群、関連する寒風沢湊や野蒜築港などの歴史の調査研究
- (2) 前号に関連する地域資源の保存・継承に関する実践と支援
- (3) 本協議会の活動に係わる情報発信
- (4) 各地域及び各団体との交流・連携促進の実践と支援

設立総会

【日時】令和4年5月28日(土) 13:30～14:20
【場所】仙台市幸町南コミュニティセンター
【出席者】本人29名、代理3名

記念講演会 14:30～16:00

「野蒜築港事業中止後の北上・東名運河の
利用状況について」

講師：斎藤 善之氏（東北学院大学教授）

野蒜築港事業に伴い開削された北上運河と東名運河は築港事業の失敗によって、その後活用されることなく終わったとの見方が主流をしめているが、実は両運河とも、明治から戦後まで地域の物流に大きな役割を果たしていた。その歴史を残された資料から明らかにする。



設立総会の様子



記念講演会の様子

会員の状況（R4.8末現在）

（計：41名・団体）

正会員	個人	14名	顧問	学識者	3名
	団体	5団体		国会議員	1名
賛助会員	個人	1名		県議会議員	7名
	団体	—		市議会議員	10名

「仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会」活動のあゆみ

年月日	会場等	内容	参加者
(設立準備活動) 令和3年8月28日	田子市民センター 第1会議室	【御舟入堀と御蔵の歴史と文化を学ぶ会】 報告①「仙台湾の日本一長い運河群の歴史と概要」 (講師:後藤光亀氏) 報告②「蒲生舟溜り・御蔵の概要と役割」(講師:吉田清明氏) 参加者意見交換(保存活動について)	35
(設立準備活動) 令和3年11月20日	田子市民センター 第1会議室	【仙台市東部沿岸地域の歴史と記憶を学ぶ会】 講演「仙台市沿岸部地域の歴史と記憶」 (講師:菅野正道氏/元仙台市博物館市史編纂室長) 報告「貞山堀発掘調査の結果」 (講師:関根章義氏/仙台市文化財課係長)	49
令和4年5月28日 (13:30~14:20)	仙台市幸町南 コミュニティセンター 多目的ホール	【仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会 設立総会】	32
(14:30~16:00)		【設立総会記念講演会】 「野蒜築港事業中止後の北上・東名運河の利用状況」 (講師:斉藤善之/東北学院大学教授)	24
令和4年10月2日 (10:00~11:40)	マリゲート塩釜 マリンホール	【寒風沢研修会】 第1部:講演会「江戸時代の寒風沢について」 (講師:斉藤善之/東北学院大学教授)	39
(13:00~17:30)	寒風沢島内	第2部:寒風沢島探訪会 寒風沢島の歴史等資源探訪(案内/NPO法人NPOLしほがま)	30 ₃

仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会 「寒風沢研修会」

令和4年10月2日(日)

第1部:講演会(10:00~11:40) 要旨

(マリゲート塩釜・マリンホール)

「江戸時代の寒風沢について」

講師:斉藤善之氏(東北学院大学教授、仙台湾運河群歴史協議会顧問)

寒風沢島の歴史、御城米御蔵などの湊関連施設及び御番所・役人、廻船問屋・宿など関係する人々の暮らしと、併せて明治時代の桂島・石浜の実業家白石廣造の業績も紹介を頂きました。

1 『寒風沢港股賑時代の懐古』から (『塩釜市史V・資料編1』所収)

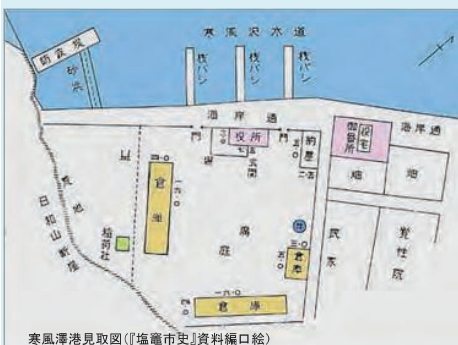
【作者】土井兼太郎氏(文久3(1863)年~昭和30(1955)年 行年92才)

寒風沢の船宿に生まれ、浦戸村収入役、村会議員、助役、浦戸村漁協組合長を経て、大正15年~昭和17年浦戸村村長(4期)。本資料は昭和25年頃執筆。

【内容】 ※股賑:大変ににぎわって、盛んなさま。

- ・寒風沢港の創始:元和2(1616)年、長南和泉守(上総国長南領主)故ありて一家従類と共に海路この地に来て、寒風沢港地を埋立拡張し居住した。
- ・塩竈港は遠浅で大型船入港には不適。水深があり、風よけの島に囲まれた寒風沢水道が外港として利用された。寒風沢港は石巻・野蒜・高城・塩竈・蒲生・関上・荒浜を結ぶ線の上の中間に位置する。
- ・寛文年間(1661~1773年)、河村随賢の東廻り航路整備事業により、幕府は荒浜と寒風沢に御城米(幕府の米)蔵を建設。
- ・伊達信夫幕府領(福島)の御城米と米沢藩領の藩米の輸送経路:阿武隈川→荒浜→(小廻船)→寒風沢→(御穀船)→江戸が整備された。

- ・出入りした船:御城米船(7~8百石~2千石、江戸・浦賀の船主、特権「日の丸船印」・「御城米御用の幟」、他船への優先権。御穀船(仙台藩米輸送、石巻の船主)
- ・「御城米御蔵」:間口16間×奥行4間/2棟、間口5間×奥行3間/1棟。「御蔵方」:役宅(旗本が御家人が下役を伴い交替駐在)。「廻船方御用達」:江戸・大坂の大商人。大広庭:米穀検査・計量、毎年初午の日に御蔵方では、村人を赤飯で接待。御田:周囲は木柵設置。



- ・「守倉稲荷」(御田稲荷とも):享保頃(1716~1736年)幕府が創建、社殿1間四方。
- ・棧橋:長7間×幅1間半/3本架設、通常橋桁のみで使用時に厚い歩み板を張る。(波浪が橋板を突き上げるため)
- ・「御番所」(御穀改役所):仙台藩の役所。「津方役人」:臨時に派遣 飯米輸送差配(御城米浦役人宅に滞在)。
- ・「御城米浦役人」:御城米船差配・海難事故処理・港取締、内海加兵衛(享保18年まで)→長南正八郎(明治維新まで)。「締役」:御城米役人の配下。
- ・「廻船問屋」:享保18年から御城米浦役人と兼帯、御城米船のほか、御穀船、諸商船などの出入りする全ての廻船を取り扱う(積荷の取扱が主)。
- ・「回船宿」(回船小宿とも):船頭が滞在する宿(船員は船で寝食)、糧米と船内消耗品補給、船員補充斡旋・病氣手当。下船船員の乗換船・帰国等世話、土井家が享保18年から明治元年まで代々勤める、年間取扱入港船は2~3百艘。
- ・「付船」:入港回船を小船で迎え水先案内し曳航碇泊させる、船員が主に酒食宿泊。
- ・「御升取」:御城米御蔵と廻船問屋に付属した役職、米穀計量を行う、役得多し。
- ・諸船:「小廻船」:弁才型 150~300石積み、阿武隈・北上・鳴瀬の川にも入れるが主に荒浜・野蒜・石巻と寒風沢・平潟を結ぶ近距離航路に就航。「御穀船」:仙台藩の藩米船、弁才型 6~7百~2千石、江戸下り荷は呉服・太物・古着・綿花・酒・陶器・雜貨。「民間商船」:弁才型千石級、北前船(松前産海産物)、遠州の船(東北の木材)、尾張・伊勢の船(瀬戸内海産食塩)、紀州の船(灘酒)、江戸前船が最も多い。

2 『寒風沢御穀改所定』について (『塩釜市史V・資料編1』所収)

【概要】御穀改所のマニュアル 全60条の構成、作成:元禄3(1690)年、左図は文政8(1825)年作成の書

- 【内容抜粋】①留物の抜け荷禁止 ・第1条 米・大豆・雑穀は「御留物」(禁制品)で他領へ移出禁止
② 海難・事故処理1(役人と地元) ・第3条 御城米船の寄港地、公儀御制札の遵守、破船の際の処理、地元者の出動義務
③ 海難・事故処理2(津奉行の管轄範囲) ・第8条 宮城新湊(蒲生力)から定川まで「寒風沢御石役人衆」の管轄 等々



(次頁続く)

3 仙台藩「安永風土記書上」所収の「代数在之御百姓書出」について (『塩釜市史・資料編』) ※4代以上の主だった家を書出。安永3(1774)年

- (1) 寒風澤の概況: 家数138、人口607、馬10疋、天当船8艘うち長南清八朗4艘 等
 (2) 内容抜粋: ①土井小平治家 肝入 6代相續 先祖・土井久次郎(寛永18年)…。
 ⑦(長南)彦三郎(肝入)6代相續 先祖・長南和泉守(清六)、元和年中、上総国長南と申所が當濱江…、和泉儀 他国より赤松の種を持参仕 近隣之鳴濱江為植候處 瑞巖寺御中興雲居和尚様より黒松之種を被下置 右兩種之松 當濱江植申候由伝候 … 4代・勘右衛門-5代・平八。… 以上20人
 (3) 寒風澤濱の由緒百姓の勢力構成: 長南一族(6家)、内海一族(4家)、土井一族(5家)、尾形一族(3家)。全体として寛永以前に2家、寛永検地で12家、延宝検地で3家が成立。
 肝入 長南一族から土井一族へ、御城米浦役人 内海一族から長南一族へ

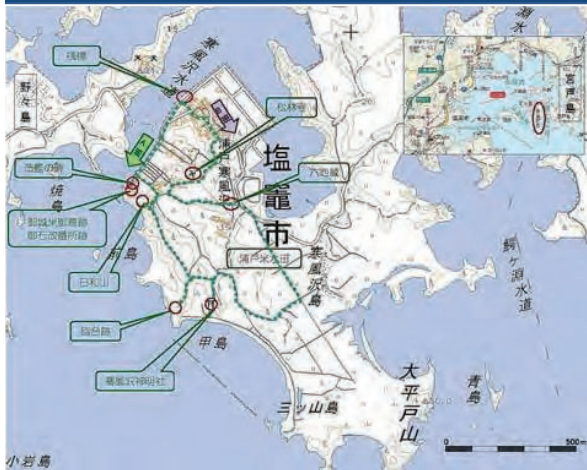
【講演会講師プロフィール】 斎藤 善之 (さいとう よしゆき)

1958年 栃木県生まれ。日本史研究者、東北学院大学経営学部教授。1981年宇都宮大学教育学部卒業。1987年早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。1995年「内海船と幕藩制市場の解体」で早大博士(文学)。日本福祉大学知多半島総合研究所嘱託研究員。2000年東北学院大学経済学部助教授、2005年経済学部教授、2011年経営学部教授、経営学部長を経て、現在に至る。
 【専門】 日本近世史、海運港湾史。江戸時代の回船研究の第一人者で、東北学院大学に在任以来、奥州地方の海運調査も進めている。【著書】『茨城県百姓一揆総合年表』(中・近世一揆研究会、1989年)、『内海船(うつみぶね)と幕藩制市場の解体』(柏書房 ポテンティア叢書、1994年)、『海の道、川の道』(山川出版社 日本史リブレット、2003年)等多数。【NPO活動】NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事長。NPO法人NPOみなとしほがま 古文書部会長。仙台湾運河群歴史協議会顧問など

4 桂島石浜の白石廣造(しらいしこうぞう)の事績(忘れられた塩竈人) (白石晋一著『明治の思い出 白石廣造翁の足跡』) 第1集・1987年7月刊

- 【略歴】弘化元(1844)年武州北葛飾郡行幸村生れ(幸手市)、文久元(1861)年横浜に出て、後に英国人に英語・簿記方を学ぶ。
 ・明治3年廻送会社設立、翌年9月汽船康平丸船長で潜ヶ浦入港、旧仙台藩土北海道移民を移送、石浜で回漕業を始める。明治6年八戸の魚肥料を販売成功。
 ・明治19年北洋漁業開始、明治24年松島湾漁業組合頭就任(カキ養殖尽力)。明治27年白石商会塩竈移転(鉄道関連)。
 ・明治29年開盛丸新造、現ロシア極東方面でサケマス漁従事、オットセイ漁研究着手、遠洋漁業(ラッコ船)開始。明治33年オットセイ漁開始、翌年ラッコ・オットセイ漁開始。明治42年開盛丸アラスカ・シトカで拿捕、明治44年日米英露ラッコ捕獲禁止条約成立。塩竈海陸倉庫設立。大正2(1913)年死去(行年70才)。
 【事業】①商業:海産物販売。②遠洋漁業:遠洋漁業(遠洋(オホーツク海)オットセイ漁、サケ・マス・タラ漁、(満州沿海)ニシン漁、近海:カツオ・マグロ・フカ・メヌケ・イカ漁、アラスカ・シベリア間海域)。③回漕業・鉄道貨物運送取扱業。④保険会社代理店。⑤倉庫保管業・解下運送業。⑥石浜郵便局長
 【社会貢献】①石浜開発 ②二口越街道開削(出資) ③仙台電力会社社長 ④殖産興業(養蚕奨励、米品種改良、鯉節改良、鮪節改良、カキ繁殖) ⑤塩釜港近代化 ⑥塩竈消防組結成・初代頭取 ⑦浦戸村村長 ⑧松島湾漁業組合・組合員頭取

第2部:寒風沢島探訪会 (12:45~17:30) 概要



※マリーングート塩竈[13:00発] ~寒風沢島[13:46着]

A班コース(B班は逆コース) 各班15名(案内者スタッフ含み)【案内】NPO法人「NPOみなとしほがま」
 寒風沢島橋[14:00]~(400m)~開成丸造船の碑、御城米御蔵跡・御石改番所跡~(200m)
 ~日和山(しばり地蔵・十二支方角石)~(500m)~砲台跡~(400m)~寒風沢神社[15:00]
 ~(浦戸米水田)~(1200m)~六地蔵~(400m)~松林寺(化粧地蔵・延命地蔵)~(500m)
 ~寒風沢島橋[16:20] [計]約4km ※寒風沢島[16:38発] ~マリーングート塩竈[17:24着](解散)



「仙台湾岸運河群歴史と記憶を伝える協議会」の今後の活動(当面)

1) 講演会や研修会等の開催 (歴史や記憶を学ぶ):年2回程度

- ・講演会「仙台湾岸運河群周辺の地名」 ※R5年2月上を予定
 (講師:太宰幸子氏 宮城県地名研究会会長)
- ・多賀城、名取、岩沼から見た貞山運河(堀)
- ・北上運河・東名運河
- ・伊達綱村(肯山公)と貞享の特令 等々

2) 地域探訪会等の開催 (運河群及び関連する地域資源の現地を探訪)

- ・木曳堀・新堀を訪ねる
- ・北上運河・東名運河・野蒜築港跡を訪ねる 等々

3) ホームページの立ち上げ

- ・運河群研究紹介、活動紹介、イベントガイド、会員の募集

「みやぎの運河群連絡調整会議」への期待(当面)

1) 運河群を活用した各団体のプラットフォームとしての役割

※2)及び3)は宮城県資料の期待効果項目

- ・メールマガジンの発行(各団体の活動情報を把握)
 ⇒イベント情報等を各種団体の会員等へ広報による参加者等増

2) 他団体や行政機関の取組を知り、それぞれの取組を活用(知る)

- ・他団体の活動から学ぶ

3) 様々な組み合わせ(マッチング)の連携による活動拡大(連携)

- ・イベント等活動を共催で開催

※その他:連絡調整会議での議論を踏まえながら更に検討して行きたい

NO, 14

貞山運河俱樂部

貞山運河フオーラム

－貞山運河（新堀）の舟運について考えます－



2022.2.20 (sun) 13:30-15:30

仙台市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール

(仙台市青葉区一番町四丁目1-3) ※詳細はごさいませんで、公社交通欄でお願ひください。

第1部 講演 13:35～14:15

「河川利用による体験型観光の創出について」

内田 尚宏さん (一般社団法人いわて流域ネットワークワーキング 代表理事)

第2部 パネルディスカッション 14:25～15:30

～貞山運河の舟運について意見交換～

パネリスト

上原 啓五さん (貞山運河倶楽部 代表)

内田 尚宏さん (一般社団法人いわて流域ネットワークワーキング 代表理事)

大和田 雅人さん (フリージャーナリスト)

菅原 正徳さん (カワラバン 代表)

コーディネーター

黒田 清志さん (仙台青葉学院短期大学 講師)

*ご参加の皆さまからご意見をいただきます。

主催 貞山運河倶楽部

協力 カワラバン/カンパニー/バーバーク新法/とりの船/六・七層堂研究会/NPO法人水・環境ネットワーク東北/新浜町内命ノ井土町伝舎/ReRoots/平浜里海岸ロッジ伝屋田/海岸公園センター/ハワズ/せんたい 3.11メモリアル交流館

助成 公益財団法人山形市民文化事業団

【お申込・お問い合わせ】

※申込：参加費のお名前、ご連絡先（代表者 TEL）を申込フォームまたはEメールでお送りください。

※当日ご参加の方は、マスクの着用をお願いいたします。

貞山運河倶楽部

E-mail torisan_casakiclub@mail.com



こちらのQRコードから
お申し込みできます。



新法 貞山運河 小屋めぐり

2022.11/19

スワンブローラーを乗る3コース

3:00 新法運河遊覧船がスタートし、船に乗りかかります。

3:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

4:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

5:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

6:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

7:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

8:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

9:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

10:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

11:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:00 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:10 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:20 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:30 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:40 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:50 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。

12:59 新法運河の風景を堪能しながら、船を降りて小屋めぐりです。



NO, 15

一般社団法人
貞山運河ネット

一般社団法人

貞山運河ネットとは

一般社団法人 貞山運河ネット

119

一般社団法人 貞山運河ネット

発起人

ゆりあげ港朝市協同組合 理事長	櫻井広行
株式会社深松組 代表取締役	深松努
仙台ターミナルビル株式会社 代表取締役社長	松崎哲士郎
株式会社仙台商産(仙台水産Gホールディング) 代表取締役会長	島貫文好
株式会社葉匠三全 代表取締役	田中裕人
仙台国際空港株式会社 代表取締役社長	鳥羽明門
七十七銀行 常務取締役	小野寺芳一
宮城県民共済生活協同組合 代表理事理事長	本田 陽二
株式会社佐々直 代表取締役	佐々木直哉
関上水産加工業組合理事長 (株式会社ささま 代表取締役)	佐々木圭亮
株式会社かわまちてらす関上 専務取締役(有限会社まるしげ代表取締役)	佐藤智明
松栄不動産株式会社 代表取締役社長	松坂 卓夫
株式会社プランニング・オフィス社 会長 月刊りらく発行人	松本辰三
貞山運河倶楽部代表	上原啓五
フリージャーナリスト	大和田雅人

120

貞山運河ネットの目的

政宗公の遺産の継承

運河の賑わいづくり

貞山運河ネットの設立

令和4年4月6日

121

貞山運河ネット基本計画

地元民・商業関係者との連携を深め賑わいを創出する

貞山運河を活用した各種イベントを開催する

貞山運河を中心にした歴史の伝承を行う

会員の実施するイベント等と連携し支援を行う

各団体等と協同で自然保護・増殖を行うことでSDGs社会の実現に努める

広報活動を実施する

122

これまで行ってきたこと 1

貞山運河の冊子の制作・配布
 貞山運河啓蒙のため名取市内小中学校生徒および名取市立各施設への配布

名取市立小中学校生徒 7600名
 名取市立図書館、公民館、名取市観光物産協会、名取市震災復興伝承館等



これまで行ってきたこと 2

貞山運河サミット
 運河沿線の各観光（物産）協会の方参加によるパネルディスカッション。10月15日開催
 名取市、仙台市、多賀城市、塩釜市の観光物産協会会員

各協会の取り組みの共有
 今後のあるべき方向性の確認



これまで行ってきたこと 3

貞山運河 新堀の調査・確認

震災後のがれきの影響や藻の調査確認

1 1月9日舟遊実施

荒浜公園センター

→名取川（折り返し）

→荒浜公園センター

約10キロ2時間強のコース



阿武隈川河口から塩釜湾に広がる「貞山運河」をボートで巡る視察会が9日、行われた。全長31.5kmの運河を活用して地域活性化を目指す一般社団法人「貞山運河ネット」が企画した。法人関係者や仙台市職員など約10人が参加。小型ボート2隻に乗り、海岸公園センターハウス（若林区）付近から名取川までの約5kmを2時間かけて往復した。東日本大震災からの復旧工

貞山運河の魅力
ボートで巡る

事が進んだ護岸や松並木、カルガモの群れが飛び立つ様子を楽しんだ。貞山運河は仙台藩主・伊達政宗が城下町建設のため、木材を運ぶ輸送路として開削を始めたとされる。同法人の榎井広行会長（68）は「様々な景色を楽しめる貞山運河の魅力を再確認できた。全国から人が集う場所になりたい」と話した。今後も舟遊びイベントや歴史セミナーなどを予定しているという。

ボートで貞山運河を巡る視察会 仙台市若林区

読真新聞 2022年11月10日

今年度行うこと

貞山運河歴史セミナーの開催

伊達政宗公の遺産、貞山運河はどのような意図でどのように造られたのか。

時代とともに変遷するその役割とは。

基調講演とパネルディスカッションで迫ります。

2023年1月26日(木) 13:30~15:30

仙台市福祉プラザ ふれあいホール

仙台市青葉区五橋 2-12-2

基調講演の部

平間雅孝（ひらま まさたか）

仙台reborn株式会社 アクアイグニス仙台 支配人

パネルディスカッションの部

斎藤善之（さいとう よしゆき）

東北学院大学経営学部教授

菅野正道（かんの まさみち）

郷土史家

コーディネーター

大和田雅人（おおわだ まさと）

フリージャーナリスト

貞山運河
歴史セミナー

伊達政宗公の遺産、貞山運河は、どのような意図でどのように造られたのか。時代とともに変遷するその役割とは。基調講演とパネルディスカッションで迫ります。

基調講演の部

平間雅孝（ひらま まさたか）
仙台reborn株式会社 アクアイグニス仙台 支配人
貞山運河と名取川の交わる仙台市若林区若原にアクアイグニスを開設し、地域の新しい未来を創造。アクアイグニスの今とこれからを語ります。

パネルディスカッションの部

しばしの間、昔の美談にタイムスリップしてませんか。江戸前に向かき強い、物流経済の源として貞山運河に思いを馳せ、江戸前のお話を語り継ぐ。現代の第一人者が、とことん深掘りいたします。

斎藤善之（さいとう よしゆき）
東北学院大学経営学部教授

菅野正道（かんの まさみち）
郷土史家

コーディネーター
大和田雅人（おおわだ まさと）
フリージャーナリスト

日時 2023 **1.26** 木

会場 仙台市福祉プラザ ふれあいホール
仙台市青葉区五橋 2-12-2

参加費 500円

【主催】
一般社団法人 貞山運河ネット

TEL. 022-262-2322
Mail. teizanunga@jp-office.co.jp
http://www.teizanunga.net

お問い合わせ 仙台市福祉プラザ ふれあいホール
〒980-0822 仙台市青葉区五橋2-12-2
TEL. 022-262-2322

NO, 16

新貞山ローイングクラブ

6/30 東北大学漕艇部の曾根原部長と堀内GMが相談し、当面は経験者を対象とする市民クルー活動を漕艇部として後援することを決定。モデルは札幌の「道新ローイング・クラブ」。

7/10 曾根原部長から在仙の卒業生などへ呼びかける。

「・・・東北大学漕艇部が岩沼艇庫で活動を始めの際に、地元への貢献や地域の方々との交流が検討すべき課題の一つとしてあります。一気に実現するのは難しい面もありますが、その地ならしとして、準備会的に月1回程度、社会人などが貞山堀で漕ぐ機会を作りたいと思っています。艇は、オデッセイという、スweep 4人漕ぎを1艇用意します。出し入れに学生の手を借りる必要があるため、土曜日または日曜日の12-15時を予定しています。」

7/31 第1回乗艇（「貞山堀で漕ぐ会」として発足）初回から東北大学卒業生以外も参加。

8/29 第2回乗艇

9/11 第3回乗艇

11/14 第4回乗艇

12/25 第5回乗艇、終了後に懇話会。

（2022年）

1/15 新年度の活動に関する打ち合わせ（仙台市内）。

3/28 活動の基盤整備のため、東北大学漕艇部名義で、国土交通省東北地方整備局などが支援する「2022年度水辺絆プロジェクト」に事業名「南貞山運河における漕艇を通じた市民交流事業」として応募する（4/27採択）

4/4 会員名簿の初版を作成。

5/7 第1回乗艇

5/29 岩沼市の清掃活動「クリーンいわぬま」に東北大学漕艇部と共に参加。

6/19 第2回乗艇

7/10 第3回乗艇

8月 「水辺絆プロジェクト」の助成金で「貞山堀だより」夏号を発行。活動紹介など掲載。

8/7 荻野漕艇場（福島県喜多方市）に遠征。残念ながら豪雨増水のため乗艇できず。

9/3 長沼漕艇場（宮城県登米市）で開催された「2022OBレガッタ」に参加。

9/14-18 漕艇部行事「北上川遠漕」を支援

10/1 東北大学の学内レガッタ（海上運動会）の招待レースに出漕。初心者の受け入れ開始。

10/30 石巻レガッタに参加し、エイト種目で優勝。会の正式名称を「新貞山RC」に決定。

11/13 第4回乗艇（右の写真）

11月 「貞山堀だより」秋号を発行。会員の記事の他、宮城県障がい者カヌー連盟が寄稿。

12/16 2022年総会

